

シドニー日本人学校における国際交流

前シドニー日本人学校 教諭

群馬県安中市立松井田南中学校 教諭 大竹 秀人

キーワード：在外教育施設、シドニー、国際交流

1. はじめに

「シドニーで良かったね」と周囲からよく声を掛けられる。オーストラリアは国民的にも気候的にもよい国である。しかし、シドニー日本人学校は現地政府の認可を受けた国際学級が併設されており、職員の半数以上が現地採用で、打ち合わせや会議は全て英語で行われる。英語が得意というわけでもない私にとって、ここシドニーに赴任したことが私にとって良かったのか、そうでなかったのか。生徒と共に私自身が国際交流にチャレンジした3年間の教育実践の概略を紹介したい。



校舎と校庭

2. シドニー日本人学校について

シドニー日本人学校は、国立公園に隣接しており、緑豊かなユーカリの樹木に囲まれ、多くの野鳥が飛来する。1周200mのトラックや芝生敷きのグラウンドが2つもあり、広大な敷地にある。教室は冷暖房完備で、固定式の電子黒板（スマートボード）が設置されインターネットの視聴もできる。

オーストラリアには小学幼稚部（キンディ）という日本には無い学年が存在する。そのため本校には、5歳から15歳までの日本人学級の生徒と5歳から12歳までの国際学級の生徒約200人が、それぞれの学年学級で生活している。

日本人学級は日本の教育課程にそった授業が行われ、毎日1時間ネイティブによる英語の授業がある。国際学級はニューサウスウェールズの教育課程に準じた教育が行われ、毎日1時間日本語の授業がある。

登下校のバスや休み時間、行事や学校施設は共有なので、休み時間の校庭では日英両国語が飛び交う。

また、職員も半数は日本語が理解できないので、毎朝の打ち合わせや職員会議、行事の相談は全て英語で行われる。

3. シドニー日本人学校における国際交流

同学年の日本人学級と国際学級は教室が隣同士に位置し、担任も職員室の机が隣同士に配置されている（国際学級担任は日本語が分からない）。授業は原則、体育・音楽・図工で合同授業（ミックスレッスン）が行われ、行事も一緒に行われる。

この他に、現地校との交流事業が行われる。

(1) 合同授業（ミックスレッスン）での交流

体育は毎週1ないし2時間を合同で行う。指導は日本人学級の教師が行う場合が多い。始業と終業は日本式に挨拶をする。挨拶の言葉や学習内容の指導は日英両言語を用いる。また、種目もクリケットやティーボールなどオーストラリアならではの競技も取り入れている。球技以外の縄跳びや持久走では、練習ペアを選ぶときに日本人学級の生徒と国際学級の生徒が組むようにして交流の場を作っている。

音楽では、11月に行われるスクールコンサート（音楽会）に向け、学年あるいは学年ブロックで日本語1曲、英語1曲の歌を練習する。

図工については、1年の半分を合同授業で行い、主に6年生の卒業記念品や卒業制作を行っている。シドニー日本人学校には卒業式が2回あり、国際学級の12月と日本人学級の3月であり、それに向けた作品制作の時間がメインになる。



スクールコンサート

(2) 行事における交流

《小学部集会について》

小学部集会では日本人学級と国際学級の児童が協力して担当する。

放課後の時間を使って、どんな内容で行うか相談をする。内容が決まると、日本人学級と国際学級から司会を選出し、台詞を作り練習をする。集会には、日本人学級、国際学級両方の児童が参加するので、日本人学級の児童は英語で、国際学級の児童は日本語での台詞を担当する。日本人学級の生徒は英語の、国際学級の生徒は日本語の発表の場となっている。

《ミックスランチについて》

本校では、2週間に1回ミックスランチがある。ミックスランチとは、その名の通り日本人学級と国際学級の児童と一緒に昼食をとることである。食べるグループは自由であるが必ず国際学級の児童が入るようにし、「話は英語のみ」とか「日本語のみ」というように毎回条件を付ける。メンバーにもよるが、性格の明るい児童を中心に笑いや会話が盛り上がる。

《スポーツデーについて》

本校の運動会を「スポーツデー」という。この「スポーツデー」では1年生から6年生までの日本人学級と国際学級の全員で踊る「よさこいソーランダンス」は、最も大きな見せ場である。体育の授業はもちろん集会や休み時間の参加自由な講習会を開催したりする。

《遠足について》

本校の遠足は、学年ブロックで企画・実施する。

例えば3・4年生では、1学期は、シティーのハイドパークバラクスとリザーブバンクに行き、オーストラリアにおける白人文化の始まりを学習する。説明は現地ガイドによる英語なので英語が不得意な児童にとっては理解が厳しいが、国際学級児童で日本語の分かる児童が通訳したりして助け合う。

3学期は、ベイシンという場所で国立公園内のハイキングとビーチでの水遊びを計画し、ビーチで1m以上のオオトカゲや野生のワラビーに出会い、オーストラリアならではの自然体験ができる。

《クロスカントリーについて》

本校では持久走大会を「クロスカントリー」という。体育はミックスレッスンなので、授業の練習から日本人学級と国際学級の児童は男女そろって一緒に走り練習をする。

練習から本番まで、良い意味で、日本人学級の児童と国際学級の児童がライバル心を燃やして、頑張って取り組む。

(3) 現地校との国際交流

《交換ホームステイについて》

本校の中学部と小学部6年生の希望者は、9月の6日間New Castleにホームステイに行く。その交換としてNew Castleからホームステイにやってくる。ホームステイ中は、交換留学生は平日は日本人学級の授業に参加する。

最終日にはNew Castleの中学校から、50人ほどが大型バスでシドニー日本人学校に来校し、交流会が開かれた。

最終日の交流会では書道、折り紙、餅つき、茶道の担当に分かれて、訪れたNew Castleの中学生に日本の文化を体験してもらっている。

《インターナショナルスポーツデイについて》

9月には「インターナショナルスポーツデー」という、3年生から6年生までの児童が参加する近隣の現地校との合同運動会が実施される。5つの学校の児童が4つの色の団に分かれ、この日だけの混成団を作成し、短距離や綱引きや玉入れや走り幅跳びなどの競技で優勝を競って戦う。

開催地が毎年シドニー日本人学校ということもあり、本校の児童が各団でまとめ役としてコミュニケーションをとりながら、リーダーシップを発揮する。

4. おわりに

本校の現地採用の職員は、ほとんどが女性で、多くは髪の毛は金色。目はブルーかグレー。中には、ケニア出身の女性もあり、私自身、必要がなければついつい避けてしまう傾向にあった。しかし、ほとんどの人が日本語が分からないが行事の企画や実施を通して、現地採用教諭と私たち日本人職員との繋がりは深まっていった。この海外赴任で私自身ももっとも変わった点は、3年間共に生活していくうちに髪の毛の色や肌の色など外見が違って気にならなくなったことである。誰に対しても同じ目線で気軽に声が掛けられるようになったことである。単一民族の日本人にとっては、「差別をしない」「個性を認める」「英語力の向上」といっても特別な事という認識があったが、オーストラリアのような多民族国家で生活しているとごく当たり前のことと思えてしまう。

教師としてというより人としてのスタンスが広がったような気がする。ここで得られたものを、これからの人生の中でより多くの人に伝えていきたいと考えている。